

平成29年度 熊本市食の安全安心・食育推進会議 食育推進部会

開催日時 平成29年11月17日（金） 10:00～12:00

場所 熊本市総合保健福祉センター（ウェルパルクまもと） 1階大会議室

出席委員 8名（五十音順・敬称略）

（荒木 紀代子、田中 眞知子、大塚 真由美、新改 勝也、菅原 明紀、  
田上 あつみ、田上 きみ子、平川 恵子）

次第 1 開会

2 議題

- (1) 第3次熊本市食の安全安心・食育推進計画「食育の推進」施策の体系案について
- (2) アンケート内容について
- (3) その他

3 閉会

《事務局》

課長挨拶

資料説明

部会長選出 熊本市食の安全安心・食育推進会議運営要綱第9条第3項に基づき、部会長に田中 眞知子委員を選出

《事務局》

一議題1 資料説明一

《田中部会長》

資料1及び資料2の説明があったが何か質問はないか？

《田上あ委員》

資料2の災害時に備える食育の推進で、実際、熊本地震を基にされているということだが、区役所を中心にやるのか、また、その計画があるなら具体的に詳しく示してほしい。

《事務局》

熊本市全体として、第7次熊本市総合計画市民アンケートでも「あなたは、災害に備えて飲料水や食料を備蓄していますか。」という質問項目があり、熊本地震を体験している市内全体としても、関係機関と「備える食育」を進めていかななくてはならないと思う。

また、各区役所の保健子ども課では、子どもから高齢者まで、幅広い世代に対して災害時に備える食育についても啓発活動を行っているところであり、現在災害時の備蓄に関して啓発資料を作成中で、資料を基にいろいろなイベントや身近な地域の場面でそれを活用し啓発活動できるよう関係各課と連携していきたいと考えている。

《田中部会長》

資料 1、P 3 の「ゆう活」の意味を教えてください。

《事務局》

「夏の生活スタイル変革の提案」、「日照時間の長い夏に朝早く仕事を初め、早めに仕事を終わることで、明るい夕方の時間を有効に活用して生活を豊かにする取り組み」、ゆうについては、「夕焼け時に」や「悠々とした時間が生まれる」、「友人と会える。遊ぶ時間が増える」、「家庭で過ごす優しい時間ができる」、「新しいもの、ことと自分が結ばれる」という様々な「ゆう」の意味があると政府広報に書かれてある。

《田中部会長》

既に、8月の本会議で「食育の施策」体系は示しており、先日の庁内ワーキンググループ会議意見を頂いて、方向性は了解されているので本日は示された「体系」で進めていくことを基本とする。

議題 2 の「熊本市健康づくりに関する市民アンケート」の内容について事務局より説明をお願いします。

《事務局》

－議題 2 資料説明－

《田中部会長》

自分にアンケートが来たときにどう答えるか、ここは答えにくいなど、違った視点も必要なので委員の皆様には1つずつご意見をいただきたい。

《荒木委員》

P10、問30について、回答できるのが1つになっていて、複数回答のところと1つのところと混在しているが、ここが1つなのは前回と同じ設問だから変えられないのか？複数回答にしたほうがいいのでは？複数回答にすると、多いものから順に優先順位が見えてくるのでは。

また、問30に「健康づくりできます店」を1つ追加してもらいたい。数で成果指標は出るが、市民の方々に「健康づくりできます店」の情報を発信するために、追加してはどうか？

《田上き委員》

P4、問11について「あなたは、野菜をどのくらい食べていますか。」と量を質問しているが、山盛り両手1杯は生野菜しかイメージがでない、生野菜なのか、煮たものなのか、焼いたものなのか、その点もイメージして両手1杯なのか。

当方の施設では高齢者も多く、生野菜を食べるように言っているので疑問になった。

《菅原委員》

P3、問6について「今朝、あなたはどんな朝食を食べましたか。」が削除されたことについて、朝ごはんを何を食べたかはとても重要だと思う。保育園で、朝ごはんにカップ麺や菓子パン食べている子もいて、血糖値の問題もあるので、親子さんに理解してもらうためにも消さないほうが良いのではないかと。

《大塚委員》

P4、問 11 について、設問に追加項目として「調理法がわからない」、「弁当にも入ってないから」など何かしら野菜を食べれていない理由を入れるといいのでは。

《新改委員》

P11、問 35 の「あなたは、食生活面で「くまもとらしさ」を感じることがありますか」について、問いが難しいので例示を入れたり、どういったものがくまもとらしさに繋がるのか示したほうがいいのではないか。

《田上あ委員》

P4、問 11 について、P6 の食事バランスガイドを、市が前面に押し出すのであれば、設問に食事バランスガイドの、副菜の量の目安を参考に例示した方がわかりやすい。

事務局説明のなかで補足され解りやすくなっているの、生野菜なのか茹でたものなのかで違ってくるので、市民に理解できるよう工夫したほうがよい。

《平川委員》

P11、問 35-2 の「1.水がおいしいこと」、「2.お茶やコーヒーがおいしいこと」について、水がおいしいからお茶やコーヒーがおいしいということか。

《田中部会長》

荒木委員が他にも気になる点があるということなのでお伺いしたい。

《荒木委員》

マルチ回答と単一回答があるが意図があるのか。

《事務局》

回答数について目立つものは改善しているが、基本は前回実施のアンケート結果との比較から評価していただきたかったため前回のままにしている。今回の意見を聞いて見直しをしたいと思います。

《田中部会長》

P14、新設 4 の「あなたは、災害に備えて飲料水や食料を備蓄していますか。」について、どちらか一方でも備蓄したことになるのか。一つの設問で二つの答えになると回答に迷うと思う。

また P13、問 41 の SNS とあるが、そういうことに詳しくない人もいると思うので、例示をいれたほうがいいのでは。

《事務局》

商品名などもあるので今回の意見を聞いて見直しをしたい。

《荒木委員》

問 1、問 2、問 3 について、問 2 の「朝食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。」とあるが、その前の問 1 は「あなたが、同居している家族はあなたを含めて何人ですか。」となっているので問 2 は同居している家族だけなのか、別居している家族もいると思う。同居している家族がいなければ問 2 と問 3 は回答しなくてよいのか。

《事務局》

問1で同居している人がおらず単身なら、問2と問3は集計データからはずしている。

《荒木委員》

同居していない人は回答しなくてもよいのか。

《事務局》

回答しなくてもよい。

《平川委員》

同居していなくても、友人でも一緒に食べたことになるのでは。

《荒木委員》

同居者がいなければ、問2、問3は記入しなくてもよいが、記入者側は回答してしまうのでは。

《田中部会長》

自分も母と同居せずに朝夕食だけ食事する経験がある。記入者側が迷わないようにしてほしい。

《荒木委員》

記入者側にとってはこの問いは不親切だと思う。丁寧にしたほうがよい。

《事務局》

成果指標でみる所なので、文言を変えると正しいデータが取れない可能性がある。しかし国の「第3次食育推進基本計画」の目標で「地域等で共食したいと思う人が共食する割合」が新しく増やされており、友達や近所の人と一緒に食べるという考え方が増えたので、問2、問3の問いを「朝食を仲間と食べる・・・」等に検討していきたいと思う。

《田上あ委員》

共食のところで地域でとなると朝、昼、夕と3食になるのではないか。

朝夕は家庭での食事が多いと思うし、一人暮らしだと昼も入る。

《事務局》

皆さんのご意見を聞いて「週に何回一人で食事をすることがありますか。」という選択肢も含めて検討したい。

《田中部会長》

P3、問6の復活の可能性についてはどうか。

《事務局》

前の設問の問5で普段朝食を食べているかは聞いているが、問6の「今朝、あなたはどんな朝食をたべましたか。」の問いは傾向ではなく、その日の事なので設問としては難しいと判断し削除した。

朝食の大切さを考えると、「今朝」を設問に入れないほうがいいのか。

《平川委員》

「おおよそどのようなものを食べたか」では聞けないか？

《田中部会長》

自由記述となると統計処理上難しい。選択肢で選んでもらうほうがよい。

食べた内容が朝食とはカウントできないものもあるので、朝食の定義みたいのを表せないか。

《菅原委員》

例えば、設問の内容を「今朝」ではなく、1ヶ月の朝食の状況を振り返ってお答え下さいとする。選択肢にスナックや菓子パンの項目を入れるか。若い回答者のことも考え、設問の内容を変えるのであれば、その項目も入れたほうもいいかもしれない。

《事務局》

県民栄養調査でも「朝ごはんを食べていない」と「スナック菓子を食べている」の2つに該当すれば「欠食」とみなし朝食の欠食率を出している。若い世代の男性の4人に1人が欠食という結果であった。設問の問いの部分も検討していきたいと思う。

《田上あ委員》

中食の設問を削除される理由を教えてください。自分も中食を利用するし、利用状況を振り返ることができる項目なので削除する必要があるのか。

《事務局》

このアンケートの設問がかなり多く、回答者の負担軽減のため設問数を減らしていきたい。今の現状からすると、働き方の変化で外食、中食が広く利用されている。現状として、前回の中間評価時のアンケートの状況についてお伝えすると、外食の頻度は月に2、3回利用している人が27.5%で最も多く。月2回程度が21.6%、ほとんど利用しないが23.3%、週に1、2回程度が19.8%、男女間で大きな差は見られない。

平成27年度で75%ぐらいの方が外食を利用していることになる。中食の弁当や持ち帰りの惣菜も含めて、ほとんど利用しないが25.6%、週に1、2回が24.1%、月に2、3回が22.1%、男性がほとんど利用しないが高く、女性で利用しているが高いという結果であった。食環境整備のうち栄養成分表示をどこから広めるかを検討するため調べたのではないかと思われる。利用されている所は、1位はファミリーレストラン、2位は回転すし屋、3位そば・うどん屋、平成24年度の調査に比べて平成27年度に数値が目立って下がっているのは、ファーストフード店。

以前は、外食は祝い事などがあったときに利用されてきたが、現在は通常の日常生活で外食、中食が取り入れられている状況である。

現在、食環境整備については、「野菜を食べやすい環境作り」について力を入れている。どの店でも健康的に食事ができる食環境整備として実施しており、どの店が利用されるかは必要ないのではないか。また、設問数が多いので割愛させていただいた。

《田中部会長》

P9、問26-2の回答の4番「原産地・原産国」とあるが、原産地でイメージするのか、産地消で熊本産をイメージするのか解りづらい。

《菅原委員》

P2、問3、問4について一緒に食べていても、スマホをさわりながら食べる人が多くみられる。問3で「あなたは食事の時間が楽しいですか」と聞いたとき、その人はスマホが楽しいのか、家族と一緒に食事が楽しいのか。食事のときにテレビをつけているとか、スマホを触っているとかの設問も入れられないか。形では共食していても、孤食になっているかもしれない。

《田中部会長》

今回アンケートの指標には取り入れられないかもしれないが、若い人の新しい視点で今後必要になってくると思われる。

《田上あ委員》

P14、新設3の設問の中に安全性確保の面で消費期限とかを入れては、衛生上あるいは食中毒上の設問にしたいかで変わってくると思うが。

《平川委員》

P12、問37で郷土料理はだご汁しかないのか。いきなりだんごとかは。

《田中部会長》

ここの設問は家庭でも作り易そうなものを挙げていただいた。

以前の設問の伝統料理という表現であると、かなりハードルが高かったが、今回でハードルが低くなった気がする。

《田上あ委員》

75パーセント以上が中食、外食をすることであれば、P13新設1の「主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べていますか。」の他に中食を購入する際、組み合わせを考えて購入しているかというののもあっていいのでは。

75パーセントも利用があるのならば、その内容に野菜もあるのか。聞いてみたほうがいいのでは。

《田中部会長》

P13、新設1の設問は基本的に家で食事を作ることの設問のイメージになるのか。

《田上あ委員》

中食の購入の際に野菜の購入を考えているのか、時々考えているのか、全く考えていないとか・・・食生活が変わってくればそういう設問もあってはいいのでは。

《事務局》

新設1の文面は外食も含めてバランスよくとっているかと聞いている。設問に「中食、外食も含む」と入れると解りやすいと思うので検討したいと思う。全体を含めての確認で、グレーの網かけしてある設問については成果指標になるもの。問37の郷土料理の問いも同じく成果指標になる。成果指標だからといって前回のアンケート時と文面を全て統一するのか、それとも基本統一だが回答する方の解りやすいような言いまわしや補足した設問にしてよろしいか。

《田中部会長》

今回検討した結果、事務局の提示のように基本的に解りづらい設問に関しては補足して解りやすい設問にしてよいということで、委員の皆様の了解を得られた。

食事ということで女性が主に発言が多かったが、男性の意見も聞きたいので今までの議論を含めて感想をお願いしたい。

《新改委員》

全体的に男性には解りづらいというのが本音。男性からみたら例示的なものがほしい。P6、問17の「食事バランスガイドを知っているか。」という問いに対して男性はバランスガイドの使い方も例示で示してもらおうと解りやすい。

《田中部会長》

今回はアンケートに答えながら学べるという視点を意識した、設問に盛り込まれていると思う。男性の回答者にも解りやすく変えていかなければと思う。

《平川委員》

アンケートの男性と女性との割合は。

《事務局》

無作為で選出しており、前回のアンケートの回答者は、全体で男性約45パーセント、女性約53パーセントなのでおおよそ半々で回答していただいている。

《田中部会長》

男性が半数もいる回答とは思えない。女性だけの回答のイメージだった。

《事務局》

P6、問17の食事バランスガイドについて新改委員からもご意見をいただいたので、コマの表示だけではなく、どのようにバランスガイドを活用できるかなどの例示を入れて解りやすくしていきたいと思う。

《田中部会長》

食事バランスガイドは見たことはあるが、使い方がわからないとの意見がある。とても便利なので、男性や食育に興味がなかった方でも知ってもらえればと思う。

《田上き委員》

食事バランスガイドは食育ひろばの食のホームページからプリントアウトすればいいか。配布はされていないか。

《事務局》

熊本市で媒体を作っており、イベントなどで食生活改善推進協議会の方々が説明しながら配っていただいている。「食事バランスガイド」は農林水産省が紹介した考え方なので、農林水産省や厚生労働省のホームページなどでアップされている。

《田中部会長》

以上アンケートについては、本日の委員の意見を汲み取りより良いものに作り変えていただければと思う。

議題（3）その他

《事務局》

資料 6 説明

《田中部会長》

以上で本日の議事を終了し、進行を事務局に返す。

《事務局》

これをもって平成 29 年度食の安全安心・食育推進会議食育推進部会を閉会とする。